

### 編集後記

2017年の最終号、第63巻第4号をお届けいたします。去年12月の6史学会の合同例会で緊急提言されていた長崎市の「小島養生所遺跡」問題についてですが、相川忠臣先生、ハルメン・ボイケルス先生をはじめとした地元有志の方々のご尽力により、事態は動きつつあります。8月には分析研究所遺跡がみつきり、9月20日には市民運動の三つの会が統合し『養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会』が結成されました。また、小学校校舎新設工事を中止し遺構を保存することへの賛否を問うための「長崎市の小島養生所等遺跡の完全保存に関する」住民投票条例制定請求が9月27日に行われ翌日受理されました。法律上選挙期間中は署名活動ができませんので、衆議院総選挙終了後の10月23日から署名運動が開始される見込み（編集後記執筆時点）ですので、おそらく本誌が学会員各位のお手元にある頃はさらに事態が進展しているものと思われまます。

懸案の遺跡の完全保存への学会員各位の一層のご助力をお願いするとともに、これを機に学会員各位だけでなく一般市民の間で、懸案の遺跡だけではなく歴史資料の保存の意義についての議論や関心が深まることを願ってやみません。

(松村 紀明)